

【来賓挨拶】 芦立訓・独立行政法人日本スポーツ振興センター理事長

日本スポーツ振興センター理事長の芦立と申します。スポーツエコシステム推進協議会と私どもはパートナーシップ協定を結ばせていただきましたので、その立場で御挨拶させていただきます。

日本スポーツ振興センターの事業は、これから新しい時代に向けて乗り越えていかなければならない課題に直面しております。例えば、私どもが運営している国立競技場、東京オリンピック・パラリンピックに向けて国費あるいは東京都のお金、サッカーくじのお金などたくさんのお金、公的なお金をいただいて造り上げたこの国立競技場を、いかにコストセンターからプロフィットセンター化していくのかという大きなお題をいただいております。そのための手段として、民間事業化し、30年間のコンセッションを設定して、企業に運営をお任せする形になるところでございます。

また、スポーツ振興くじ2024年度は、1200億円と過去最高の売り上げを記録する見込みですが、これからスポーツの発展のために、ますます資金が大事で、売上げをどう伸ばしていくかにつきましても、このスポーツエコシステム推進協議会の皆様方といろいろ知恵を出し合いながら、発展の道筋を考えることができれば、大変意義深いと考えております。

また、東京・北区西が丘にある味の素ナショナルトレーニングセンターも運営しておりますが、2025東京デフリンピック大会では、射撃の会場として御活用いただくことが決まっております。

ここでは日々、パリオリンピック・パラリンピックを目指して、多くのアスリートが練習をしているわけですが、これをスポーツ医科学の面で支える国立スポーツ科学センターも、私どもは傘下でございます。このスポーツ科学センターと、先日、ワールドローイング、昔は国際ボート連盟と申しましたが、ここと11月に連携協定を結び、インドアローイング、水の上ではなくて、機械でローイングをして、全世界とデジタルデータで結んで競おうという新たなバーチャル競技についての連携協定を結びました。この協定などを生かしながら、いわゆる純粋フィジカルの競技に加え、デジタルの要素の高い競技についての研究開発も積極的に進めていきたいと考えています。

こういった面についても、各企業のお知恵やアドバイスをいただければ大変ありがたいと思ひ、このスポーツエコシステム推進協議会が多様な運動を進めることに賛同して、パートナーシップ協定を結ばせていただきました。これをきっかけとして、日本のスポーツが発展するように、多くの皆様と手を携えて努力してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。